

【解説】 ウィルコックのブログ記事は、一頃と比べると間遠になっている。これはここにも述べられているように、彼自身の情報シェアに対する考え方が少し変わったのと、やはりあの『シンクロシティ・キー』に費やしたエネルギーを回復するのに時間がかかったようである。これは、この本の発売（昨年8月20日）から3つ目のブログだが、やっと心身とも気力が充実してきたことが、行間を感じ取れる。この論文は、『シンクロシティ・キー』（翻訳書刊行は多分4月末）の要約あるいは補足としても貴重だが、特に“ルシファー”について、ウィルコックがこのように明確な見解を正面から述べたのは、これが初めてではないかと思う。ただ、結論として強調されているのは、『根源の場の研究』以来、彼が繰り返し言及してきた、世界を変えるための「瞑想の効果」である。

ルシファーの正体を暴く——ホログラフ的な、怒って暴れまわる子供



David Wilcock

February 7, 2014

強力な世界的エリート「陰謀団」が、“ルシファー”と彼らの呼ぶものを信じ、崇拝しているという、否定できない、ますます増えていく証拠がある。

我々すべてが唯一・無限の創造者の反映である、真にホログラフィックな宇宙に、“反対者”が存在するという考え方に、果たして真理性があるだろうか？

いったいルシファーとは、誰なのか、何なのか？

しばらく恐怖を追い払って、客観的にこの問いを立て、いま我々がもっている最新の科学的知識を援用するならば、我々が陥っている混乱に解決が見出せるかもしれない。

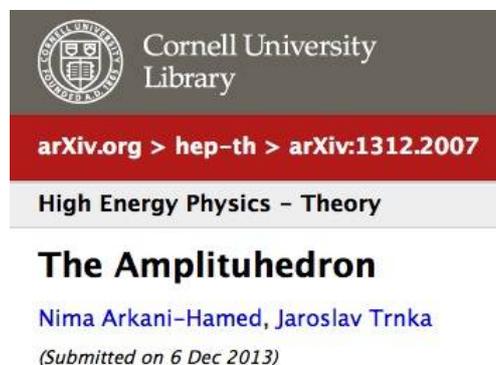
ルシファーとは、怒って反逆する子供としての我々の一部の、ホログラフィックな反映であり、このものが「パパもママもくたばれ！」と叫んで、挑戦的に暴れているようなものだと思えることができる。

この我々の内部の傷ついた子供を癒すことによって、我々は現実には、集団に影響を与えるかもしれない——そして惑星的規模で「陰謀団」の敗退を早めることができるかもしれない。

ホログラフ的な宇宙

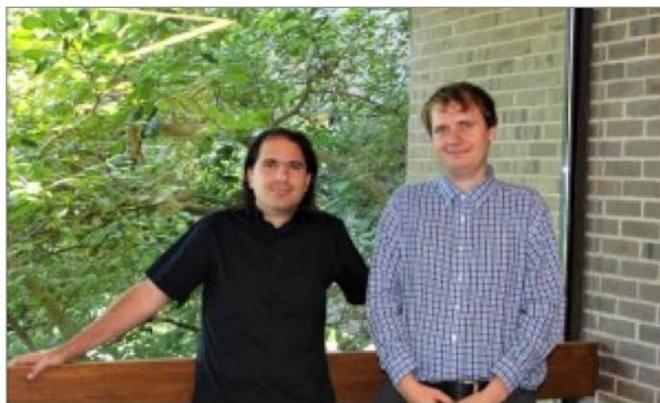
2013年9月17日、物理学上の新発見として、あまりにも意味深く、あまりにも包括的であるために、我々の現在の世界観がフラット・アース説のように無意味になってしまうような理論が現れた（リンク）。

この発見は、あまりにも斬新なものだったので、最終的な論文そのものは、2013年12月6日——これを書いているほんの2か月前——まで発表されなかった（リンク）。



Nima Arkani-Hamed と Jaroslav Trnka という 2 人の物理学者が、本質的に空間も時間も

——少なくとも我々が今考えているようには——**存在しない**ことを証明した。



Courtesy of Jaroslav Trnka

Nima Arkani-Hamed, a professor at the Institute for Advanced Study, and his former student and co-author Jaroslav Trnka, who finished his Ph.D. at Princeton University in July and is now a post-doctoral researcher at the California Institute of Technology.

明確に定義された過去と現在と未来をもつ、目に見える宇宙と思えるものは、**現実ではない**。

宇宙は、現実には、たった 1 つの幾何学形状のホログラフィックな投影である。これをこの 2 人の物理学者は “**The Amplituhedron**” と呼んでいる。

この証明はかなり複雑である。そしてこれは最近、私の週に一度の 30 分番組 *Wisdom Teachings* で 7 回に分けて取り扱われた (リンク)。

ここに、その幾つかの主要点を吟味して、この驚嘆すべき新発見について読者が自分で研究できるようなリンクを設けておこう。

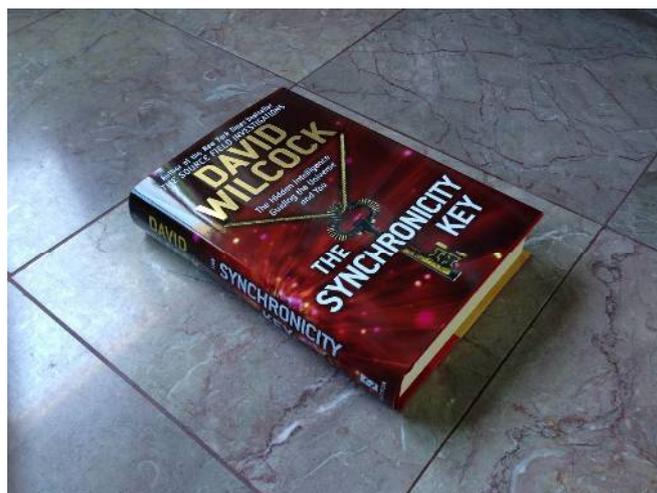
王冠の宝石

この新発見が現れたのは、私の新著『シンクロシティ・キー』——ニューヨーク・タイムズのベストセラー・リストの 8 位としてデビューした——のたった 1 カ月後だった。

昨年は私にはかなりきつい年だった——この本にかけた労力、月例集会、*Wisdom*

Teachings 等々によって。今やっと私はリラックスして再び、長い記事を書ける状態に戻った。

このお知らせをするタイミングとその性質は、それ自体、1つのシンクロシティのようであり、それは確かに、この本のタイトルと内容を反映したものだだった。



私はこの新しい発見に鳥肌が立った。なぜならそれは、私がこれまでの著書、テレビ番組、映画、講演、ビデオ、などでここ数年、焦点を当ててきた謎解きの、最終的な頂点となる論文だったからである。

この研究は、ずっと遡って、私が7歳のとき——約34年前——に読んだ初めてのESP（超感覚知覚）の本から始まっている。

これまでにやってきたすべての仕事の後でさえ、ただ1つの科学的発見が、「一者の法」(Law of One) を普遍的真理として、これほど精密に明確化しようとは思っていなかった。

サイクル的時間の完全な説明

『シンクロシティ・キー』は、時間は直線的でなく、サイクル的であることを明確に論証している。これらのサイクルはまた、広大な、目に見えない、幾何学的な空間のパターンから力を得ているということもできる。

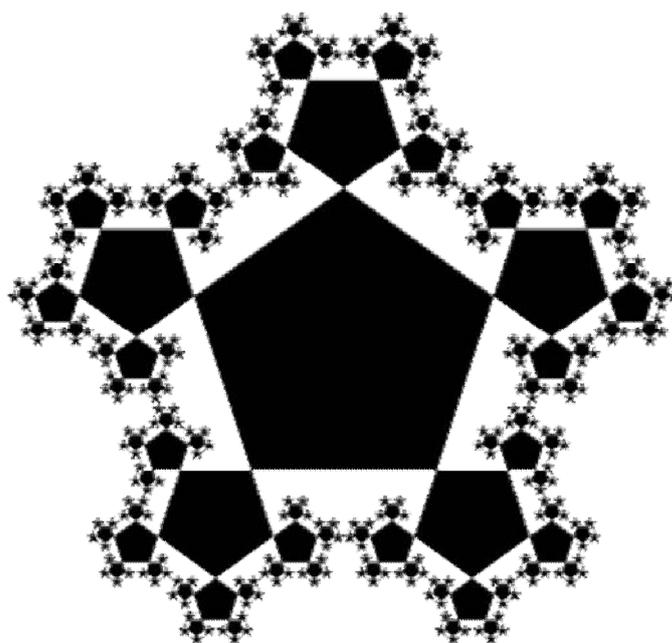
この幾何学の十分な証明と、それがどのように機能するのかは、私の次の本 *The Hidden Architecture of Time* で展開されるだろう。そしてこの新しい発見が、今度は議論の中心

となるだろう。

この **Amplituhedron** の発見は、空間のすべて、時間のすべて、物質のすべて、エネルギーのすべて、意識のすべてが、たった一つの幾何学形状から発していることを証明するものである（リンク）。

フラクタル内部の“繰り返す”パターンのように、空間に、そして時間にも見出されるこの中心的パターンの、多くのサブ幾何学形状が存在する。

次の図形は、五角形における幾何学的反復の原理を例証している——



これら幾何学的パターンのそれぞれは、宇宙全体を形成するこの 1 つの特異の要素の、ホログラフィックな反映として働く。

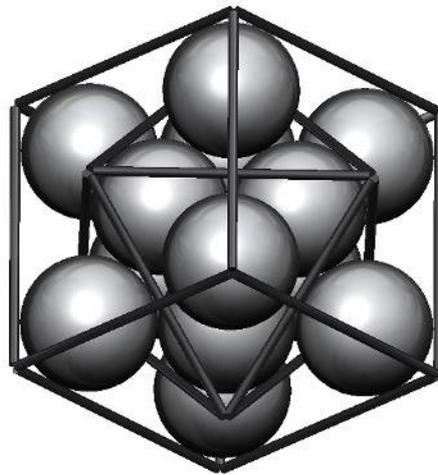
私が『シンクロシティ』において明らかにした、歴史的出来事のこの驚嘆すべき、証明可能なサイクルは、究極的には、たった 1 つの普遍的幾何学のフラクタルから生じたものである。

これらのサイクルはまた、一つの物語を語る——これはもう少し後でもう一度考察する。

幾何学的時間

この“宇宙 (Cosmos) の幾何学”は、究極的に、歴史はどのように繰り返すのかの現実的なモデルを——驚くべき精密さで——我々に与えるものである。

この幾何学そのものが、我々が空間を軌道運動するとき通り抜ける、意識に影響を与える構造として働いている。



世界中の多くの古代文化や神話に現れる、2,160年の“黄道十二宮時代”のサイクルは、それがどのように作用するかを示す、最も驚嘆すべき例の一つである。

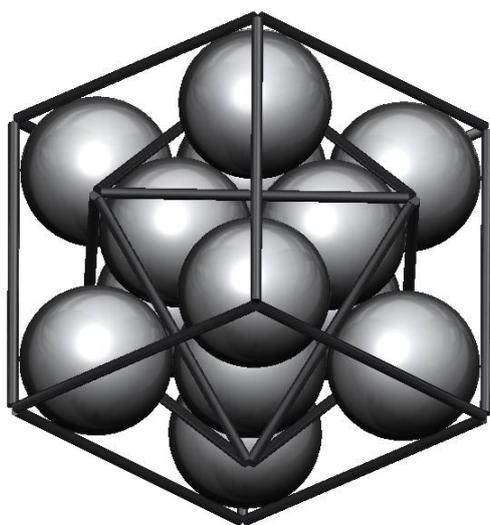
我々の古い過去の、この一見して古く、くたびれた概念とも思えるものは、輝かしい、新しい明日を切り開く我々の鍵となるものである。



同じパターンの 12 のフラクタル

この幾何学図形のそれぞれの球は、北極と南極を除いて、我々の太陽系が通過するのと同じ根底にあるパターンの、12 の“フラクタル”の1つである。

上方中央レベルに、6 個の球からなる三角形があることに注目せよ。



次に、下方中央レベルに、反対方向を指す、6 個の球からなるもう 1 つの三角形が見える。

我々がこの幾何学的クラスター全体を回るとき、我々は、これら 12 の球のそれぞれの表面を、一度に 1 つずつ通り過ぎる。

これらの球と幾何学図形は、固い立体として存在するのではない。それらは空間のエネルギー・パターンである。

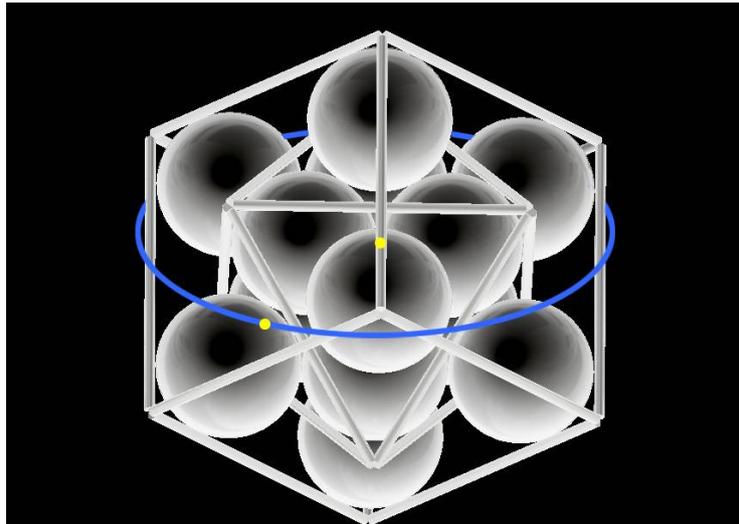
それはどのように働くか？

これがどのように働くかを見るためには、我々の太陽系全体が 25,920 年をかけて、ある伴星 (companion star) の周りを回っていると想像してみなければならない。

我々の太陽系は、この幾何学図形の外縁を、楕円形をなして回っている。我々の太陽は下の青い円の黄色い点である。伴星はこの図形の中央にあることになる——ここに示されたもう一つの黄色い点のように。

青い円そのものが、我々の太陽系が 25,920 年かかって 1 周する軌道である。

我々自身の太陽のサイズと比べると、この幾何学図形はとてつもなく大きい——しかし、それが存在するという確実な証拠が存在する。



その行程において、伴星が重力によって我々の地球の軸を引き寄せる。

これが、伝統的に言われる 25,920 年の“歳差運動”をつくり出す。



私が 2 冊の本と *Wisdom Teachings* などによって広範囲に明らかにした通り、この 25,920 年パターンは、世界の 30 以上の古代神話に——**何者か**によって——隠されていた“マスター・サイクル”である。

これは、昔の“神々”——聖書や他の文書では“天使”とも言われている——が意図的に、世界中に、この知識を植えつけたものと思われる。

聖書をはじめ、世界中の 30 を超える異なった文化の、多くの古代の文書や伝説に、その確実な証拠となるものが存在する。

彼らは、我々の科学技術が進んで、**なぜそれが重要であるか**を理解できるようになったときに、それを再発見するように、特定のこれを秘匿した。

この伴星についての詳細

この伴星の表面は——我々の太陽を含めて、すべての恒星が自然にそうなるように——決まった間隔で隆起したり沈下したりする。

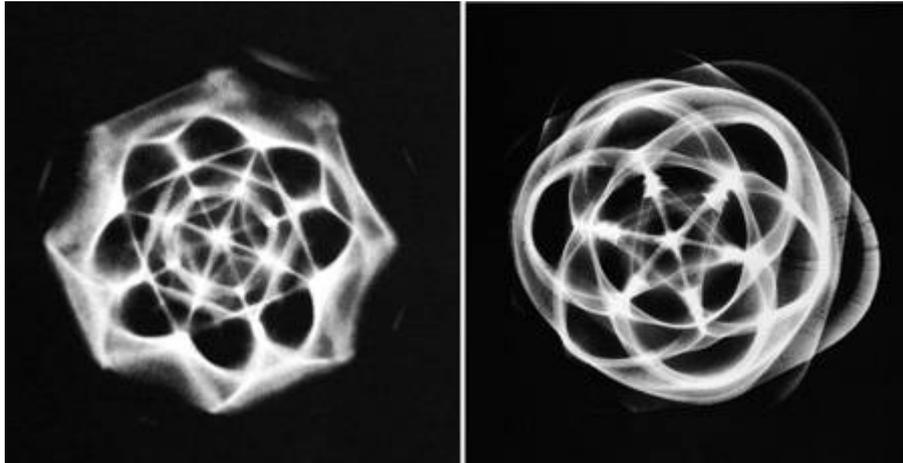
これは私の大作の論文「2012 年 12 月 21 日：ロマンスと現実 (I, II)」に明瞭に説明されている（リンク、2013/1/23, 2/4 のこの欄に翻訳あり）。この幾何学について更に詳細を求める方は、この記事を読まれるとよい。

一つの星の上下運動は、振動をつくり出し、これを取り囲む空間全体にさざ波を送る。

究極的には、空間は、同じこのような振動によって生ずる幾何学図形によって、構造化されている。

Hans Jenny 博士は、微小な砂粒を含む水の球状の一滴を、振動させることによって、これがどう働くかを示した。

この振動は、自然に砂粒を配列して、上に見る図形のような、美しい幾何学的パターンを形成させた。



根源の場

これが、活動する基本的な流体力学である。我々の連星太陽系 (binary solar system) の場合には、幾何学形状を創り出す“流体”こそ、私が根源の場と呼んでいるものである。

意識は普遍的な現象である。それは生物学的生命にのみ限られたものではない。これは大きな秘密である。

意識は幾何学である

一つの思考は、究極的に、根源の場に起こる幾何学的さざ波である。

空間のそれぞれの幾何学的領域は、そこを通過するすべての者の心に、異なった影響を与える。

これは占星学というものであるが、私はこれを『シンクロシティ・キー』の中で、遥かにより証明可能なデータを用いて擁護している。

『根源の場の研究』で私は、いかに我々の太陽系のすべての惑星が、これら同じ幾何学的パターンによって、その場所にきちんと置かれているかを論証している。

これは決して偶然によるものではない。それは物理学の基本的真理であって、量子レベルからずっと上まで働いている。それはこれまでも常にそうであったし、今後もそうあり続けるだろう。

私はこのことを、『根源の場の研究』よりも、*Wisdom Teachings* のさまざまな時間に、もっと徹底的に説明してきた。

これらの本は無料ではないが、十分に安価なので、どなたでもわずかの努力で手に入れることができる。

一つの普遍的幾何学の発見は、この壮大なパズルを完成させた最後のピースだった。

これらの本を読むとか番組を見ることなしには、それは完全に意味をなさないかもしれない。しかし“宿題”はすでになされた——二冊の本を合わせて 1,730 点の参考文献を完備して。

私は『シンクロシティ・キー』を先に読まれることを強く勧める——『根源の場の研究』への、より親切なイントロと概観を与えるものとして。

それぞれの球は同じ物語を語る

この幾何学形状の内部のそれぞれの球は、同じ青写真——同じ**台本**——を備えている。

黄道十二宮から見れば、我々がこれらの球の一つひとつを通り抜けるのに、2,160 (25,920 / 12) 年を要する。

鉄筆が蠟の蓄音機レコードに音楽を刻み込むように、一つのサイクルで起こる大きな出来事は、次のサイクルで繰り返される。

球はただ一つしかない

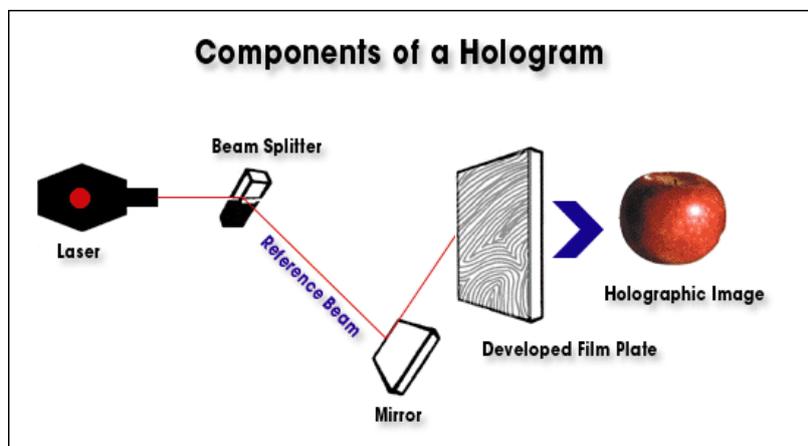
これがどのように働くのかの秘密を本当に理解するためには、我々はホログラムの中心原理を思い出さなければならない。

ホログラフィックな写真版を細かく切り刻んで、それにレーザー光線を当てると、そこには、その破片ではなく、依然としてホログラム全体の像が見られる。

再現性の原理のように、幾何学形状の各部分に、全体の像が含まれている。

[そして確かに、ある懐疑論者が指摘したように、この説明が完全に正確であるためには、

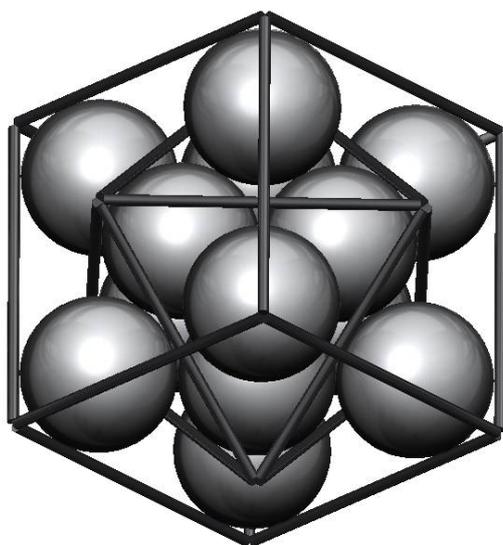
2本の光線がビーム・スプリッターから出てくるところを見なければならぬ——その通り。]



ちょうどホログラフィックな写真版をどんなに細かく切っても、同じ画像が現れるように、このクラスターのそれぞれの球には、全体の情報が含まれている。

他のすべての球は単に反映である——2枚の鏡の間で跳ね返る、繰り返すパターンのように。

我々は14個の異なった球を見ているように思えるだけである——北極と南極を加えれば。



まさに同じ理由によって、一つの球で起こるどんな出来事も、我々が次の球を通過すると

きに起こるであろうことに、自動的に影響を与える。

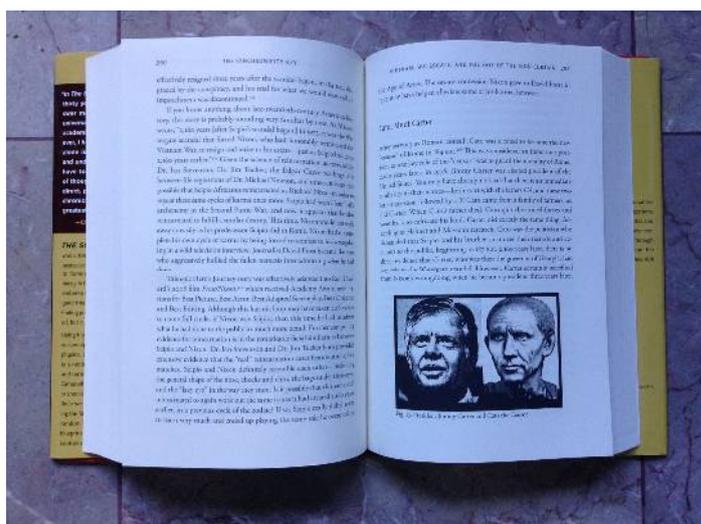
これは、それぞれの面の終わりに来るとスキップするレコードに似ている。

2,160 年サイクルの例

『シンクロシティ・キー』の後半全体は、いかに歴史が繰り返すかの驚くべき例がぎっしり詰まっている。

一つの注目すべき例として、ローマの歴史は、正確に 2,160 年後に、現代アメリカの歴史において精密に複製されている。

これはこのパターンの、最も新しい、経験したばかりの例である。



これらの話の筋書きの登場人物でさえ繰り返している——ヒトラー、リチャード・ニクソン、ジミー・カーターなどのように。

彼らは結局、それぞれのサイクルで、精密に重なり合う時点において、非常によく似た行動をしている。

ウォーターゲイト事件のような、見たところ複雑で、予言不能で、ランダムな出来事さえ、2,160 年前のローマ史において、正確にホログラフィックな複製をもっている。

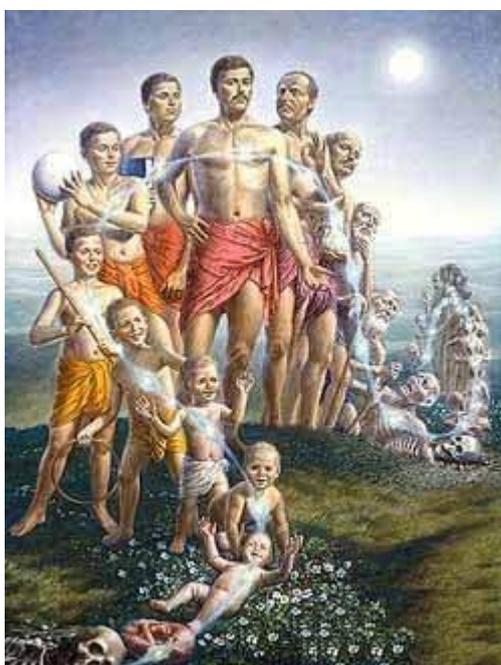
私は時とともに、高度に掘り起こす価値のある、この驚嘆すべき新しい情報をますます多

く公表していこうと思っている。

我々が思うほど現実的なものは何もない

『シンクロシティ・キー』は、イエスのただ一つの最も重要な教えは、“生まれ変わり（再受肉）は真理である”ということであったという、否定できない証拠を展開している。

この知識は、口頭によって、イエスから聖ペテロへ、アレクサンドリアのクレメンスへ、そしてこれを *De Principis* に記録したオリゲネスへと、伝わっていった。



現代の研究者イアン・スティーヴンソン博士は、前世において別の人間であったことを覚えている子供の、3,000以上の例を確認した。

これらの子供たちは、自分が過去にこうであったと主張する人物と、驚くべき法医学的な顔の一致を示していた。

ジム・タッカー博士は、警察の人相照合コンピューター・ソフトウェアを用いて、この研究を継続し更に拡大した。

タッカー博士は、生まれ変わりが確認されたどのケースにおいても、人相の一致が驚くべきものであることを証明した。データはあまりにも広範囲であって、これを無視すること

はできない。

生まれ変わりは確立された科学的事実である。イエスはこの同じ真理を教えたが、ローマ人たちが、政治的目的のためにこれを聖書から排除した。

これはまだ大衆に十分受け入れられていない考え方である。しかしデータはすでに整っている。

いま我々は、すべての人を啓蒙して、現実に行っていることに目を開かせるべき時期に来ている。

ひとたび我々が集団的レベルでこれを理解し、“神”について誰が正しく、誰が間違っているというような争いをやめるならば、我々は、古代に約束された「黄金時代」への入口に大きく近づくことであろう。

究極的にこれは我々すべてに起こっているのかもしれない

これまでのところ我々は、ヒトラー、リチャード・ニクソン、ジミー・カーター、ビル・クリントンなどが、より早いサイクルにおいて現れた歴史的人物の、紛れもない生まれ変わりであることを確かめることができた。

しかしこれは、私の信ずるところでは、砂漠のオアシスの最初の水の光であるにすぎない。何人かの批判者がコメントでこれに反論し、“エリート”だけがこんなふうには再受肉するのだと言ったのに反して、これは万人に起こっていることが、やがて発見されるものと私は確信している。

我々は何度も何度も戻ってきて、同じパターンを繰り返す——極端に正確で、組織立てられた時間サイクルにおいて。



きわめて破壊的な、戦争好きだった、カルタゴの将軍ハンニバルは、アメリカの怨敵であるドイツの将軍ヒトラーとして戻ってきた。

カルタゴはドイツになり、ローマはアメリカになった。彼らの歴史は、一つの時代から次の時代へと、唾然とするような精密さで繰り返している。

ハンニバル/ヒトラーは、2,160年の年月を隔てて、空間・時間的に驚嘆すべき相関関係をもって、同じ役割を果たした。

我々はここから何を学べばよいのか？

『シンクロシティ・キー』はまた、サイクルをなす時間は、聖書とイエスの教えのもう一つの、大きな、隠された神秘であることの実証を示している。

旧約・新約両聖書のある部分は、聖書の人物たちが、この現実世界の隠れた面をよく知っていたことを示唆している。

このことは、自由意志は我々が考えるほど自由ではないことを意味する。重要な、時代を決定するような出来事は、きわめて並行的な時間サイクルをなして繰り返される。

ネメシス（怨敵）は、これらのサイクルのそれぞれにおいて必然的に敗退する。しかしほとんどの場合において彼らは戻ってくる——そして後に同じことをする。

もし我々が、世界の圧倒的多数の人々がそうするように、一人の愛する創造者を信ずるとすれば、これはすべて、宇宙的デザインの一部分だという事実を受け入れなければならない。

この壮大な“物語”——我々のすべてが、見たところ恐ろしく強大な悪漢と戦うという物語——は、地上の我々の生活の基本的な青写真として、組み込まれているように見える。少なくともこれまではそう見えた。

しかしなぜだろう？

古代の教えは、これらのサイクルが我々に教えている教訓を、我々が身につけるならば、このパターンはもはや繰り返される必要がなくなる、とも言っている。

これこそ究極的に我々を、真の“黄金時代”へと押しやるものである。それは個人的・集団的なレベルで同時に起こる、旅立ちである。

冒頭の行を各自、自分で読まれよ

そこで我々は、この新しいデータ——宇宙には、空間も時間も現実には存在しないことを示すデータ——のより深い吟味へと、直接入っていくことにする。

Quanta Magazine に最初にこの発見を明らかにした、この論文（リンク）は、我々がこの記事の初めで用いた大胆な言語より、やや控えめではある——しかし大きくは変わらない。



物理学者たちが、粒子物理学の根底にある幾何学を発見

<https://www.simonsfoundation.org/quanta/20130917-a-jewel-at-the-heart-of-quantum-physics/>

物理学者たちは、粒子の相互作用の計算を劇的に単純化する、宝石のような幾何学的対象を発見しており、空間と時間を、現実世界の基本的な構成要素だとする考え方に疑問を呈している。

いったいどういうこと？

ここで言われているのはどういうことか？ 我々は空間と時間を当然のことと考えている。空間と時間の存在は、疑問に付されたことさえない。

空間は、我々の周囲にあるすべてである。我々はこのにいる。何か別のものがそこにある。2つの異なった場所がある。1つではない。

時間は、我々の空間の経験を固定させるものである。そのようにして、すべては我々にとって意味をなすものとなる。

我々が前になしたことは過去であった。我々が後になすであろうことは未来である。2つの異なった場所——と、そのように我々は考えている。

今、最先端の物理学は、空間と時間は“考え”にすぎないと言っている——そしてこの“考え”は、完全に間違っているようである。



この新しい発見は、「空間と時間を、現実世界の基本的な構成要素だとする考え方に疑問を呈している。」

なるほど… 空間も時間もないのか。この 2 つは「現実世界の基本的な構成物」ではないのか。OK, よからう。

妻——あなた、今夜、私たちはどこへ行くの？ 何時までに行けばいいの？

夫——我々はどこへも行かないよ。宇宙はすでに起こっているのだ。

妻——何ですって？ どうかしてるんじゃない？

夫——場所は、現実世界の基本的な構成要素ではない。我々はずっとここにいるのだ。ほかに行くところなどない。

妻——なーるほど。



あなた自身が幻影の内部にいたとしたら、どうしてそれが幻影だとわかる？

我々は今、宇宙全体を形成している「宝石のような幾何学的対象」をもっている。これは現実に空間と時間の中に存在する対象では全くない。

それは単に、空間と時間を存在するように見せかけているにすぎない——“構成体”として。

我々すべては現在、この広大な、創られつつある“幻影”の内部に生きている。したがって我々は、幻影そのものを見ることしかできない。

しかし、数学と科学という道具が、今、我々を取り巻き、現実世界と我々の呼ぶ“箱”の外側を、覗き見ることを可能にした。

宇宙は、我々のこれまでの大胆な想像をはるかに超えて、映画『マトリックス』で想像されているものに近いことが分ってきた。



スプーンは存在しない。



定義によって、我々はホログラフィックな投影でなければならない。

ホログラムのように、我々の一人ひとり、定義によって、我々がそこから現れてきた一体化された全体の、一つの投影でなければならない——現実には、他には何も存在しないのだから。

これがあるために、「ルシファーは存在するのか？ もし存在するなら、それは誰なのか、何なのか？」という問いが、非常に挑発的なものになる。

ほとんどの人々は、ルシファーの存在を信じさえしない。

信ずる人々は、これを強大な力をもつ、すべてを包み込む脅威として、すべての恐怖の総

体として見る傾向がある。

ルシファー信者たちの将来計画を暴く記事やビデオの大多数は、怒りと苦々しさと復讐心に満ち、恐怖の虜となり、しばしば絶望的である。

悲しいことに、これこそまさに、我々のホログラフィックな宇宙のネガティブな相が、それが生き続けるために、我々に感じさせなければならないものなのである。ネガティブな勢力は、我々が食べ物と水を必要とするように、生きるのに、恐怖と怒りと悲しみを必要とする。

もし我々が、自分自身の心の中に、そのものの住みかを作ってやらなければ、ネガティブな存在は、地上に存在することも、生き永らえることもできないことを、我々はやがて発見するであろう。

我々がこの住みかを共同で作っている間は、ネメシスは歴史の大サイクルにおいて、繰り返し現れ、我々を苦しめ続けるであろう。

この壮大な闘争の新しいラウンド——経済的崩壊、大戦争、暴政の革命的な転覆——のそれぞれが、もう一つのテストである。

我々は理解していなければならない

今日の世界で本当は何が起こっているのかについて、我々が知識を広げるほど、古代の宗教的テキストが、本当は何を我々に教えていたのかを理解することが、ますます必要になってくるように思える。

古臭い昔の神話といったものでなく、人間進化の次の段階に到達していたと思える偉大な師匠たちの語るこれらの物語は、今日の諸問題に深く関わっていると思える。

N S A（米国家安全保障局）による監視のニュースが主流になっていくにつれて、ルシファー信仰のシンボルが、ますます大衆メディアに登場するようになった。

あなたが“ルシファーの力”の存在を信じようと信じまいと、肝心の点は、**世界の最も強力な人々の一部が現実にこれを信じていることである。**

情報公開（ディスクロージャー）のプロセスが進展していくとき、これは我々すべてが嫌

でも直面させられる対象である。

“小児性愛ネットワーク”が暴かれ破壊された——有名な Jimmy Savile 事件を含めて——というような話をあなたが聞くとき、これが物語の背後に隠れている。

この見方の角度については、後の記事で探究することにする。現在、私たちはこれを単独の、より大きな物語の一部として構成中である。

我々は同じ過ちを繰り返してはならない

おそらく、ルシファー信者のアジェンダの完全な公開暴露が、我々の考えていたよりもかなり早く実現する可能性がある。

私たちはこのウェブサイトで、かなり長期にわたってこのストーリーを追いかけてきた——エドワード・スノーデンなどより遥かに高い地位の、多くのインサイダーの助力を得て。

ひとたび「陰謀団」が暴露されたとき、我々の直面するだろう最大の問題は、我々が、かつてヒトラーがユダヤ人に対して掻き立てた、同じジェノサイド的誘惑を、繰り返さないことである。

もし我々がこれをやれば、我々は教訓を学ばなかったことを証明することになる。我々は同じ時間サイクルにおいて、同じ過ちを繰り返し続けなければならないだろう。

では正確にルシファーとは何か？

ルシファーを真に暴き、衣を脱がすためには、それは「神はいない」という考えの人格化だということを理解しなければならない。

これは我々の人格の基本的な一部として見ることができる。心理学者はこれを「イド」と呼ぶだろう。スピリチュアルの人々は「エゴ」と呼ぶかもしれない。

エックハート・トールはこれを“苦痛体” (pain body) ——我々がトラウマを受けている間、身につけるペルソナ——と呼んでいる。

最も深いレベルでは、我々のこの部分は、神が存在すること、そして宇宙にはルールがあることを、確かに知っている。

我々のこの部分は、このルールを好まないのである。実はそれは、そうしたものを憎んでいる。

そこで怒った子供がそうであるように、我々は“機械に向かって腹を立てる”——そして自分は、自分が住んでいるシステム全体よりも優れていると信ずる。



これは癩癩を起して暴れる子供と全く変わらない——ただこの場合には、この原型を体現する大人は、はるかにより大きな害悪をもたらすが。

親はそれでも親であって、最善を尽くして子供を愛さなければならない——なぜなら、それは基本的に彼ら自身の血肉の一部だからである。

放蕩息子

ユングの用語では、ルシファーは“放蕩息子”である。

我々のこの部分は他者に対して、かなり深刻な危害を与えることができるが、それはやはり最後には、家に戻ってこなければならない。

ひとたび戻ってきたとき、それは自分が常に愛されていたことを知る——破壊的な癩癩を起したにもかかわらず。



放浪している間、「放蕩息子」は、あまりにもこっぴどく「悪いカルマ」によって痛めつけられたので、彼が他人に対してなしたすべてのネガティブな行為は、彼自身の経験において、支払われてしまった。

生まれ変わりは、多くの生涯を通じて、「この教訓を長く引き延ばす」ために必要とされることがある——我々が十分に強くなり、これ以上痛めつけられることなく、自分がつくり出した経験に向き合うことができるようになるまで。

カルマ——因果の普遍的な法則——は、“親”が子供に負わせた“ルール”である。これが子供を激怒させたのだった。

この傷つけられ、怒り狂い、孤独で、苦しみを背負った子供は、「パパもママもくたばるがいい！ あなたたちは私に命令することなどできない！」と言うのである。

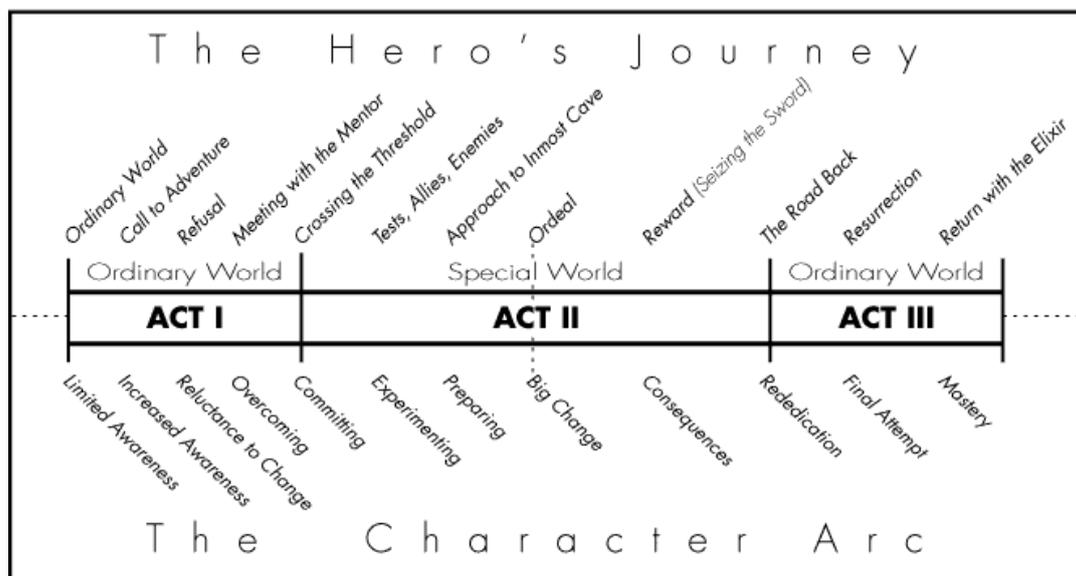
ネガティブな勢力は存在を許されている

『シンクロシティ・キー』において、私は、宇宙はただ一つのアイデンティティをもつ、そしてこのネガティブな勢力は存在を許されている、という包括的な、科学的論点を展開している。

それは、「英雄の旅」として知られ、我々すべてがもっている、基本的な“運用システム”の中に書き込まれている。

それは、あらゆる永続する古代神話に現れる壮大な物語である。あなたはこのストーリーの概要に従うことなしに、ハリウッドの映画台本を書くことはできない。

Christopher Vogler “The Hero’s Journey”



ネメシス、あるいはルシファーは、主人公の欠陥の鏡像のような反映である——つまり、それらが抑制できずに大きくなったときの。

主人公の character arc（性格変遷）は、彼あるいは彼女が、第二幕でネメシスに立ち向かい、第三幕で最終的に勝利することを要求する。

上の図式で見るタイムラインは、ページ数を表わしている。典型的な例は、第一幕が 1 – 30 ページ、第二幕が 31–90 ページ、第三幕が 91–120 ページである。

これは、歴史のサイクルにおいて演じられるものと全く同じパターンである。いくつかの例はあまりにも完全なので、それらをそのまま映画台本へ“ドラッグしてはめ込む”ことができるほどである。

すべての映画脚本家はパターンに従わなければならない

繰り返すが、このパターンはあまりにも見事に機能するので、ハリウッドでは台本読みのプロを抱えていて、あなたがそれに従っているかどうかを審査する。もし従っていなけれ

ば、あなたの台本が売れる見込みはない。

ヒーローは自分の「探究」を解決するためには、第一幕つまり最初の設定で我々の発見した欠陥を、最終的には克服しなければならない。

ネメシスの明らかな弱点と子供っぽい偽善が、ヒーローの目覚めの引き金となる。

我々は、惑星的なネメシスが現実存在することに、ますます気付きつつある。

このネメシスの弱点と偽善もまた、完全に明らかになりつつある。

大衆スケールのルシファー・シンボル

ルシファー信仰——確かにこれはインサイダーたちによれば宗教である——の信じられない露骨な見せつけが、世界最大の公的イベントで行われている。

あからさまなイルミナティのシンボルが、2012年スーパーボウルのハーフタイム・ショー（リンク）、2012年グラミー賞授賞式（リンク）、それに2012年オリンピックの開会・閉会式（リンク）に現れた。

マイリー・サイラス（Miley Cyrus）もまた、前に論じたように（リンク）、2013年VMA（ビデオ音楽賞）授賞式のパフォーマンスによって大いに物議を醸した。



2012 スーパーボウルで、アヌナキ/イルミナティの女神イシュターとして現れたマドンナ——
ローマ帝国兵士によって護衛されている

2013年スーパーボウルのハーフタイム・ショー（リンク）は、もっと抑えられていた。大がかりな 33 分間の停電は、我々が言ったように、「陰謀団」への直接攻撃だったかもしれない。

2014 年で目立つケイティ・ペリー

ところで今年 2014 年のグラミー賞は、ケイティ・ペリー（Katy Perry）を使ってルシファー儀式を行ったが、これは、これまでの例で断然、群を抜くものであり、おまけに 33 組のゲイ・カップル合同結婚式を加え、保守主義者を怒らせるように意図されたものだった。（注、33 はイルミナティ 33 階級を匂わせている）

ケイティ・ペリーは、血のように赤い、知識を得た（illuminated）templar 騎士団の十字架を胸から鼠径部にかけて身につけていた。イルミナティ神秘主義は、templar 騎士団の秘儀伝統と密接につながっている。



よく知られたイルミナティ暴露ウェブサイト、Infowars や Vigilant Citizen は、早速これを公表し、主流メディアの知名人でさえ、これらの悪ふざけに疑問を呈した。



NFLのクォーターバック、A・J・マカロンが、公然とグラミー賞のルシファー・シンボルを弾劾

元アラバマのクォーターバック、A・J・マカロンは、公然とグラミー賞授賞式を、「本当に悪魔的」で「ここには世界の悪が満ちている」と弾劾した。

<http://www.breitbart.com/Breitbart-Sports/2014/01/27/A-J-McCarron-Grammys-Evil>



グラミー賞のショーでは、ケイティ・ペリーは魔女の扮装をし、ゲイのカップルが“Same Love”という歌とともに結婚式をあげる間、“火あぶり”にされる演技をした。

彼女は不気味な悪の木や悪魔的登場人物に囲まれて、魔女の箒をぐるぐる回る。周囲のステージ全体が火の海になる。



いずれにせよ、家族一緒に見たいような光景ではない…

スーパーボウルにも見られた

2013年の時と同様、2014年スーパーボウルのハーフタイム・ショーは、2012年の派手な見世物よりは抑えられていた。

これは一つには、こうした公然とした儀式はやめよという、「陰謀団」に対するプレッシャーがあるからかもしれない。

公式のビデオでは、注意を払っていなければ、2014年スーパーボウルのハーフタイム・ショーで、イルミナティ・シンボルがあったかどうかさえわからない。

しかしいくつかの写真で、“心得ている”人たちは、パフォーマンスを行っているブルーノ・マーズ (Bruno Mars) の背後に閃くシンボルを見逃さなかった。



ここにはっきりと、イルミナティのピラミッド・シンボルが見えており、「すべてを見る眼」が現れそうな天辺から、光線が発散している。

こうは言っても、これらのアーティストたちが、これらのシンボルが何を意味するかを知っていたとは考えられず、彼ら自身がその仲間ではない。

ケシャは、彼女の歌 Die Young (若死せよ) を「歌わせられた」

アーティストたちが、いかに自分の宣伝しているものを知らないかが、ケシャ (Ke\$ha) と呼ばれるポップ・シンガーによって分った。

2012年12月、彼女がイルミナティ・シンボルを用いたことに大変な反発が起こったとき、ケシャは、自分は **Die Young** を歌うように強制されたのだと言った (リンク)。



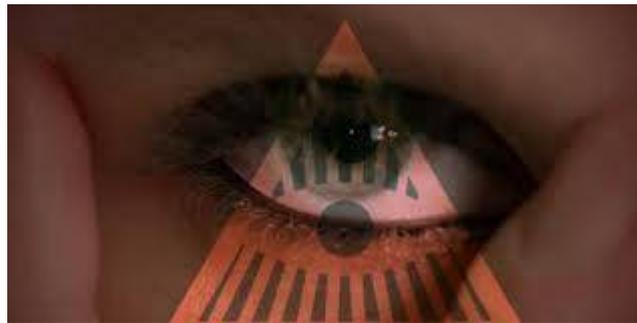
Die Young のビデオは、かつて見られた最もふてぶてしい、イルミナティ・シンボル見せつけの一つだった——教会の中で、彼女がイルミナティの星型五角形の下で踊っていることも含めて。

VH1 (ケーブルテレビ・チャンネルの一つ) は、このビデオが発売された直後、これを笑い物にし、これはすべてビッグ・ジョークであろうと言った (リンク)。



ケシャはイルミナティの一部だろうか？ 彼女は何らかの形の魔術に関係しているのだろうか？ それとも、ただの“スーパー・トレンドイ”に過ぎないのだろうか？

確かなことはわからない。しかし **Super Earworm “Die Young”** の新しいビデオは、魔法の三角形から神秘の五角形まで、圧倒的な量の幾何学図形を登場させている——その間に「すべてを見る眼」を度々用いて。



A tush that says EVERYTHING.

このビデオが出てから、そのユーチューブ版をクリックしてみると、ほとんどすべてのコメントが、ケシャを“イルミナティのスケベ女”として激しく攻撃していた。

彼女がこれに「志願した」ことによって受けた反発は、すさまじいものだった。

おそらくほとんど自殺したくなるであろうような、前例のない人格攻撃の中で、ケシャは進み出て、これは「やらされた」ことだと言った。

「デイリー・メール」はこう書いている——

ケシャは、自分自身の歌 **Die Young** から距離を置こうと試みてきた。このあけすけに物を言う歌手は、自分のヒットソング **Die Young** を激しく攻撃し——これは彼女の膨大な数のプレイリストから削除された——この論争を引き起こした歌詞は強制されたもので、その内容はいかがわしいものだと、ずっと思っていたと語った。

芸能界に魂を売る

忘れてならないのは、多くのアーティストは、舞台に立てなければ失業するということがある。

専用のジェット機や、5つ星のホテルや、名前を絶叫してくれる熱烈なファンに慣れたあとで、忙しいレストランのウェイトレスに戻ることはできない。

彼らは、若くナイーブな、未経験の状態で出発し、注目されたいと願っている。彼らのビデオは完全に人畜無害なものとして出発する。

時間とともに、収入と権勢が上向いてくるにつれて、シンボリズムがより多く現れるようになる。ケイティ・ペリーの音楽ビデオにも、まさにこれが起こった。

ケイティ・ペリーは、常識的な内容を演ずるように言われ、これは社会が否定している人々の迫害——現代の魔女狩り——を意味するものだと言われたのかもしれない。

より深いレベルでは、もしそこに「陰謀団」の一味が絡んでいるとしたら、彼らは、彼女の本名である **Russell Brand** への仕返しとして、これをやらせたのかもしれない。

ブランドは、「陰謀団」に敵対してはっきり物を言う、現代の最も声の大きい有名人になっている。彼は安全でもある。なぜなら彼らは、彼を殉教させて、英雄にしたいからである。

Justin Bieber: “影響下にある” アーティストのもう一つの例？

ジャスティン・ビーバーは、大きな公的メルトダウンの最中にある——飲酒運転、路上レース、器物破壊、薬物使用、暴力行為、ストリッパー、等々。

ジャスティンの最初の入れ墨は、鉤爪に秘密の鍵を握った、「モロク」として知られるイル

ミナティのミミズクのシンボルを、非常にはっきり描いたものだった。

この鍵は、古代の神秘を解くことのできる秘密——それを洩らす者を死の脅迫をもって守らせた秘密——を象徴するものと考えられる。

下の“X”のシンボルはギリシャ文字で、キリストのシンボルとして用いられ、ジャスティンが戦っている二重性を表わすように見える。



ミミズクは、面白いことに、“ボヘミア・クラブ”（BC）のロゴによく似ている——これは「陰謀団」の毎年の集会が行われる「ボヘミヤの森」（リンク）で使われるナプキンの模様だ。



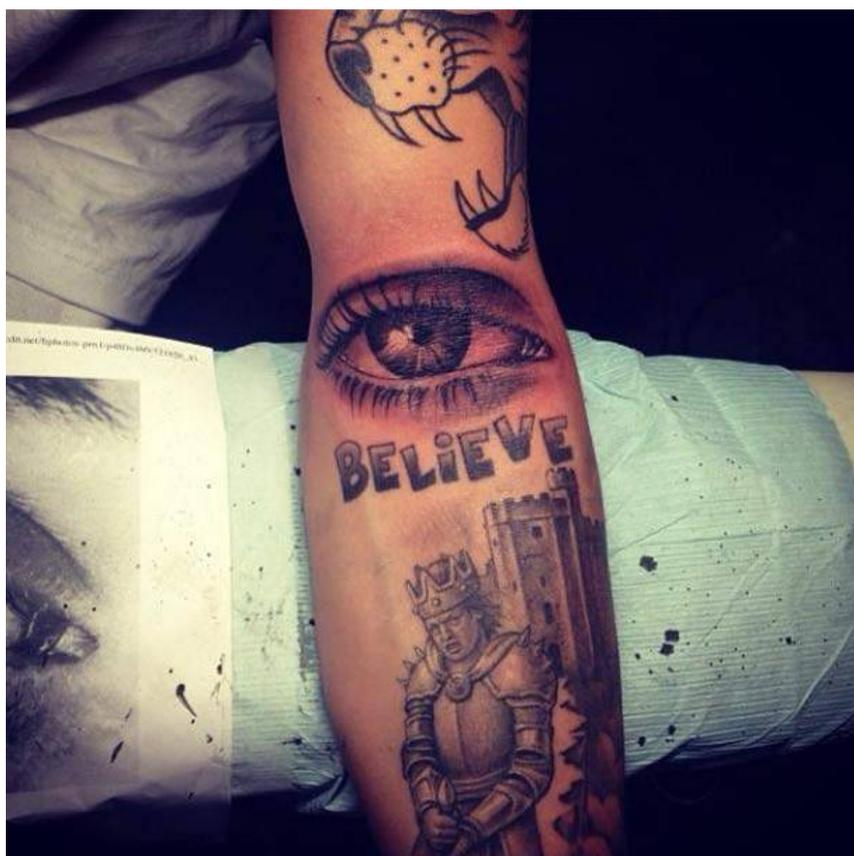
その後それが、もっとひどくなった

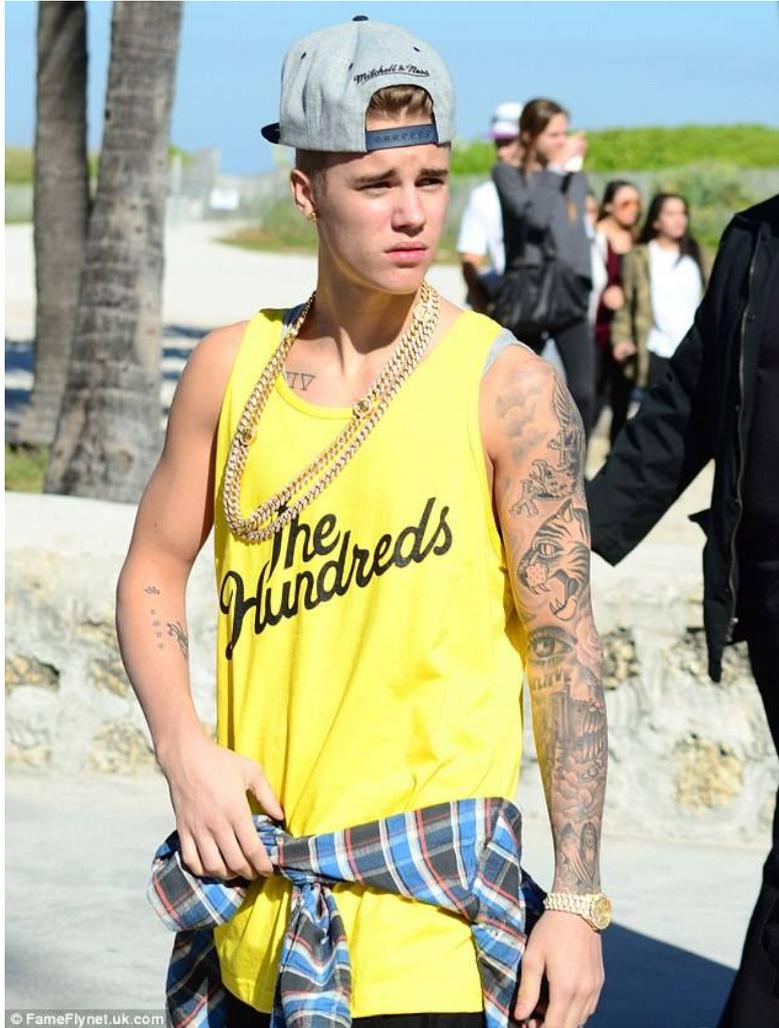
その後、さらに挑発的なことに、ジャスティンはミミズクの次に、左の肘に、イルミナティの「すべてを見る眼」を描いた。彼が自分の左腕を見るたびに、それは彼を見上げるようになっている。

確かなことは言えないが、この眼はマドンナの顔から借りたもののように見える。

このシンボルの下、モロクの絵の左側に、非常に明瞭なテンプル騎士団員が、王冠をかぶって城の前に立っている。

そればかりか、眼のシンボルの真下には、**BELIEVE** という言葉が見える。何を信じよというのだろうか？





地球の十字架刑

ジャスティンのテンプル騎士団員の絵の下には、世界そのものが十字架上で^{はりつけ}磔にされている驚くべき画像がある。

いったい誰がこんなことをやっているのだろうか？ 答えはジャスティンの腕のもっと上にあるのか？ テンプル騎士団員は、磔にされた地球の十字架に、剣を突き立てようとしているのか？



砕けた十字架

先週、別の入れ墨がジャスティン・ビーバーの胸に現れた——今度は、奇妙に砕けた十字架だった（リンク）。

これは彼がどう感じているかの過程を、視覚的に表わすものなのだろうか？ キリスト教に同調する彼の部分が、完全に折れたのでなくとも、ひどく損傷を受けているのだろうか？



私はジャスティンが、これらのシンボルが本当は何を意味するのかを理解するほど、「深入り」しているとは思わない。今のところは、彼は助けを必要としていると思われる。

私は彼に腹を立てているのではなく、こんなふうに彼の入れ墨を人目にさらしたくはない。彼はおそらく死の脅迫を受けている——そしてもし話せば、“自殺”で殺されることがわかっている。

どちらにせよ、飲酒運転で路上レースなどして他人の命を危険にさらすのは、擧蹙も最たるものである。

「陰謀団」は——その間^{かた}ずっと笑いながら——人をうまく育てて、世間から嫌われるようにし、そして彼をズタズタにしてしまう、顕著な習癖をもっている。

大統領や首相や指導者も、同じ目的に使われる。「陰謀団」はまた、人々を互いに反目させることも大好きである。

彼らはこれを何千年も続けてきた——これは私たちの次の記事“[Illuminati History 101](#)”で明らかにされるが、『シンクロシティ・キー』でも扱われている。

ビヨンセの超エロティックな、グラミー賞パフォーマンス

ここでしばらく、2014 グラミー賞セレモニーに戻ることにしよう。ケイティ・ペリーの儀式と 33 カップルの“集団ゲイ結婚式”は、論争を挑発するように意図された唯一のイベントではない。

ビヨンセ (Beyonce) と彼女の夫ジェイジー (JayZ) は、あまりにもエロティックで卑猥なダンス・パフォーマンスを行ったので、多くの親たちは、彼らの子供たちがこれを見たという、カンカンに怒った。

次は、このダンス・シーンで私たちが見せられると考えた、できる限り挑発的でない写真である——この問題にこれ以上貢献したくないから。



これについて「デイリー・メール」は次のように報じた——

ビヨンセのグラミー賞授賞式のパフォーマンスは、子供たちが見るにはあまりにも信じられぬほどにきわどいものだったので、多くの親たちの総攻撃を受けた。

この 32 歳の歌手は、魚網タイツの上に「見せる」ための黒い革ひものボディースーツをつけて、ロサンゼルス下町のステープル・センターで、夫のジェイジーとともに、彼女のヒットソング「愛に酔って」の 1 つのヴァージョンを演じた。

ビヨンセのセクシーなダンスは、東西両海岸で午後 8 時に、中部時間で午後 7 時に放映されたが、これに怒った多くの親たちがコメントを寄せ、「無礼で」「下品で」若い視聴者には全く不適當だと評した。

Infowars のグラミー賞セレモニー評

2014 グラミー賞セレモニーのこの場面を取り上げた Infowars は、次のように言った――

グラミーズは公然とこれは「サタンの儀式」だと認めた。

2 つのグラミー賞にノミネートされていたナタリー・グラントは、昨夜、このイベント会場に着いたときの興奮をツイッターで知らせたが、ほどなくして、彼女の見たものが彼女のキリスト教的信念と衝突するという理由で、早々に引き揚げたことを明らかにした。

「私たちはグラミー賞式を中座した。多くの言いたいことがあるが、そのほとんどは私の頭の中にしまっておいた方がいいように思う。

「しかしこれだけは言っておきたい――私はイエスについて、イエスのために歌うことを、これほど名誉に思ったことはない。そして私の選んだ道に、これほど自信をもったこともない。」

彼女は正確な事情をはっきり口にはしなかったが、グラントはおそらく、ケイティ・ペリーが、逆さまにした箒の周りを踊りながら悪魔に取り囲まれ、彼女の歌「ダーク・ホース」を演じながら、火に包まれてしまったことを言っている。

ケリーは、テンプル騎士団の発光する十字架のついた衣服を着けていた。



E! Online ですら、ペリーのパフォーマンスは「現実の魔女の妖術」のようだとツイートした。

うーん、ケイティ・ペリーのグラミーズ・パフォーマンスのあいだ、我々の目撃したのは「現実の魔女の妖術」だったのだろうか？

キリスト教音楽ウェブサイト **BreatheCast** は、ペリーのパフォーマンスは「サタンのイメージと魔女の妖術に満ちていた」と抗議した。視聴者たちもまた、このショーのオカルト的意味合いが、いかにショックだったかを表明した。

Chantal Herrera @Chanteezzy——私はケイティ・ペリーが、彼女のパフォーマンスのあいだ、サタンを呼び出していたと、99%確信している。

Gomila @gomila——これで、ケイティ・ペリーを尊敬するすべての少女たちは、サタンを崇拝するようになるだろう。

Josie Stokes @josie_stokes——私がイルミナティの影を追い払おうとすると、ケイティ・ペリーがバフォメットと共に、どこにでも現れる。

これはすべて、アメリカが今経験しつつある“冷却効果”の一部

一つ前の論文で私が書いたNSA（米安全保障局）の正体暴露の“冷却効果”は、いわゆる「イルミナティ」への我々の集団的目覚めの第一波にすぎない。

古代の知恵を最も現代的な科学と結びつけることによって、我々は、イルミナティに敗北をもたらす究極の秘密に、やっと気づき始めたところかもしれない。

前の論文で言ったように、NSAの大衆監視計画の初期の徽章は、公然とイルミナティのシンボルを用いている。



彼らを恐れ憎むことは、彼らをより強くすること

覚えておいていただきたい——あなたがこうしたことを信じようと信じまいと、このようなシンボルを、広範囲な規模で、ある非常に明確な理由で、流布させている人々がある。

この「陰謀団」が何よりも求めていることは、極度の超自然的な恐怖をつくり出すことである。

彼らを恐れ憎むことは、彼らをより強くすることである。これは基本的な“引きつけの法則”として、この地上の出来事においてホログラフィックに働いている。

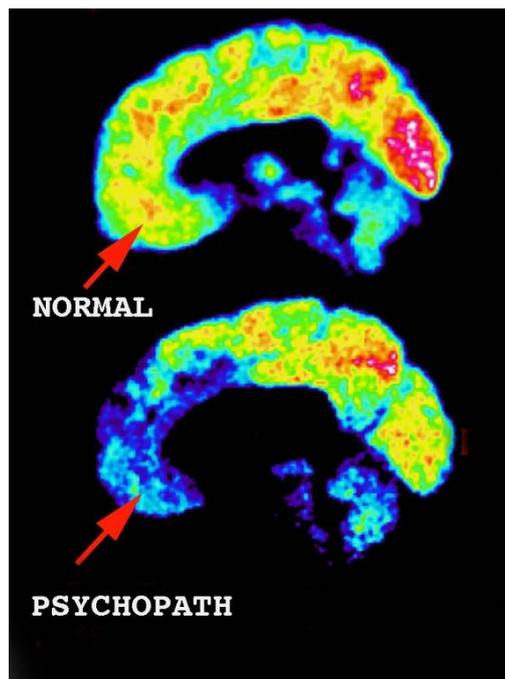
「悪魔」とか「サタン」とか、あるいは人格をもつ力としての「ルシファー」のようなものが、果たして存在するのだろうか？

これらの人々は、この力を宥めすかして、そのものに導きを求め、そこから権力と、この

地球を支配する力を受けられると信じているのだろうか？

これも、それが真実であるかないかはわからないが、彼らはそのように信じている。

ネガティブな方向性をもつ人々の脳写真



他者に同情することなしに考え、感じ、行動する人々——残虐な犯罪を行うことのできる人々——は、ソシオパスとかサイコパスと呼ばれている。

今では分かっていることだが、ソシオパスのMRI スキャンによる前頭葉は、ほとんど完全に真っ暗になっている。

これは強さのしるしではなく、弱さのしるしである。これは内部から見た子供の怒りの、目に見える徴候である。

このような人物は大いに治療が必要である。感情移入、同情、愛と結びついた脳の中枢が、極度のトラウマや苦痛のために、閉ざされているのである。

主流心理学は、サイコパシー（精神病）に治療法はほとんどないと考えている。そして男性のほぼ4%、女性のほぼ2%はこの徴候をもっている。

しかしこうした徴候をかなりの程度、軽減し、これらの脳中枢の活動を刺激することは可能のようである。しかしそれは通常、何年もの深い自己検査を必要とする。

瞑想の効果

私がこれまでに出版した最も強力な科学的発見の一つは、私の 2 冊の本で取り上げている「瞑想の効果」である。

39 の別々の集団瞑想の実験によって、わずか 7 千人のグループが、世界中のテロや戦争や大量致死事件を、72%も減らすことができることが証明された。



これは我々すべてが、この地球上で、同じ心を共有しているという事実の強力な手掛かりとなる。

サイコパスの人々のMRI スキャンによる、脳の不活発に見える領域は、我々が少しでも多くポジティブな感情をもつようになるほど、活性化され、明るくなる可能性が大きい。

思い出していただきたい——全宇宙が一つの幾何学的振動からの流出であることが分った今、我々の相互の繋がり of 科学的証明はさらに増えたことになる。

こうした考え方を、私たちは今後の記事でさらに探究していく予定である。

ルシファーを傷ついた子供として捉えなおす

すべての空間と時間の根源であるこの幾何学形状が、一つのアイデンティティ（本体）であると考えてみよう。それは「一人の無限なる創造者」である。我々はこれを「父/母神」として考えることができる。

多くの科学的な問題点において高い信頼性があることが判明した「一者の法」によれば、宇宙で最も重要な法則は**自由意志**である。

我々すべては我々のやり方で、宇宙の経験を、共同で創り出すことが可能なはずである。

もし我々が他者の自由意志を妨害するならば、それは究極的に自分自身を傷つけるだけである。我々は自分自身の生活で創り出すものを経験している。

「一者の法」の見方では、「ルシファー的勢力」は創造者の一部であって、そのものは自分自身を全体から引き離すことができ、全システムを占領することができると考えている。

この勢力が現実にもつようになった。それは自分自身のアイデンティティを持っていて、絶えず自分自身の生き残りのために戦っている。

傷ついた子供に似て、それは深い恨みを持ち、自己陶酔的で、怒っている——そして絶えず痲癩を起し災禍を引き起こしている。

しかし「一者の法」の教えるところでは、それは決して、それが行うことを許されている以上のことを、行うことはできない。

ルシファー的勢力のための住居を制限すること

ルシファー的勢力が、今日の世界で起こっていることに対して発言できるためには、それは、自分が活動する住みかを、その中に持たなければならない。

その住みかは、我々が自分自身や他者について考え、感ずる、その仕方によって創り出されている。

怒り、消沈、悲しみ、嫉妬、恐怖は、それがいかに正当なものとも我々が考えようと、我々

の内部に、この住みかを創り出す。

このような感情に落ち込んでいるとき、我々は知らずしらずのうちに、ルシファー的計画がうまくいくように、協力し加勢しているのである。

より強力に暴力的に行動するほど、我々はますます、我々の惑星的筋書きのネメシスに譲歩することになる。



宇宙的能量と意識の法則は、ルシファー的勢力によって、きわめて真剣に受け取られている。

それは直接、我々に何かをさせることはできない。それは、それがなすように仕向けられていることを、なすことしかできない。

それは、自分よりもはるかに強い存在たちによって強制された“ルール”に従わねばならない——これも「一者の法」によれば。

この宇宙空間には遥かにより強い勢力が存在する

ルシファー的力を体現しているどんな存在も、「一者の法」の言葉で、“5次濃度”と/または“6次濃度”の初期段階を通過することはできない。

[この濃度、と「一者の法」哲学については、*Wisdom Teachings* と『シンクロニシティ・キー』に説明されており、直接、オリジナル・テキストをここ（リンク）で読むこともで

きる。]

6次濃度に十分に入っていくためには、その存在は、自分のネガティブな、自己奉仕的な相を放棄し、一体性と同情（共感）と「一者」を取り込まなければならない。

宇宙には7次濃度存在も存在していて、彼らは“知的無限性”に帰っていく前に、宇宙進化の全過程を監視することになっている。



この議論は一つの論文の範囲を超えている。しかしそれは「一者の法」シリーズで広範囲に扱われている。

Wisdom Teachings の多くの放送時間がこの哲学を取り上げている。

もしそうだとしたら？ ではなぜそうしない？

さしあたって今は、私の関心は読者に考えていただくこと、あなたの脳のあの前頭葉部分をくすぐることである。

“もしそうだとしたら？”

そして、もしあなたがその仮定を受け入れることができれば、次の質問は、“ではなぜそうしない？”ということになる。

もし、ただ単に、平和で愛に満ち、他者に対する同情と許しの精神状態を保ち続けるだけで——「瞑想効果」の論文が証言するように——地上の平和を創り出すことが本当にでき

るとしたら、では、なぜそうしないのか？



息を殺して熱心に、「陰謀団」のいよいよ迫った敗北のニュースを聞こうと待ち構え、そうした望みが実現しないと、ますます腹を立てたりする代わりに、なぜ、このホログラフィックなアプローチを試みないのか？

一つの集団瞑想が答えであると信ずるだけでなく、なぜ、許しと受容を毎日の習慣としないのか？

驚くべきインサイダー証言

私はこれまで、非常に高いレベルの「陰謀団」で働く人々の話を聞いてきた。そこに、いかに多くの「一者の法」哲学との相関関係があるかは、驚くほどである。

私の聞いたところでは、いわゆる「イルミナティ」を運営している人々は、実は下っ端であり、ネガティブな方向性をもつ、肉体を持たない“地球外”存在たちのために働いているということだった。

これらのETたちは、「アヌナキ」(Annunaki)と呼ばれている。私は *The Annunaki Connection* というタイトルの、彼らの歴史の基本をかなりうまくまとめた、古代エイリアンに関する番組に出た (リンク)。

すべてのETがネガティブなのではない。実は、彼らの圧倒的多数がポジティブであることがわかっている。しかしこれら“悪い奴ら”も、彼らの楽しみ (fun) をもつことが許さ

れている——厳しい制限の範囲内で。

彼らは“恐怖養殖者”（fear farmers）である

これらの存在は、実は地球を恐怖の養殖に使っている。これが「陰謀団」の行動の多くが——人間の視点からは——全く意味をなさないように見える理由である。

これらのネガティブなE Tが生きる糧としている恐怖のエネルギーは、「陰謀団」では loosh と呼ばれている。（注——「いかがわしい、怪しい」を意味するフランス語の louche から来ているらしい）

あるインサイダーは私にこう言った——「いやはや、デイヴィド、この惑星が 2012 年に破壊されると考えたすべての人たちによって、どれほど大量の「ルーシュ」が作り出されたか想像できるかい？」

読者は気付かれていると思うが、私は常に、この潜在的な“イベント・ホライズン”と我々の未来一般について、非常にポジティブな、楽観的な見方をしてきた。

これらのインサイダーたちは私に、ネガティブな者たちがこの惑星にかけている巨大な爪は、たった一日で、完全に、永久に破壊され得るものだと話してくれた。

この地上の十分に多くの人々が、たった一日、単純な平和と感謝の思いにひたるだけで、ネガティブな者たちは、あまりにも多くのエネルギーを失って、ここにはいられなくなるだろう。

これがクレージーに聞こえるかもしれないことは分っている。しかしもう一度言うが——

もしそうだとしたら？ ではなぜそうしない？

我々は無力なのではない——その反対だ

言えること、言うべきことは、まだいくらでもある。簡単に言えば、私はこの主題について、それが人々を怒らせ、かつあるいは、私を嘲笑的にする可能性があるからといって、語るのを避けるつもりは全くない。

私は「陰謀団」はどちらにせよ、確実に敗北すると考えている。この驚倒すべき話題につ

いて洩らしてもよいインサイダー情報はいくらでもある。今年中には、大きな変化が明らかになるはずである。

我々は無力ではない。また、「ただ坐って花火が上がるのを待ち、」自分が期待していたより遅くなったとって、文句を言うようなことがあってはならない。

たとえ我々のほんのわずかのパーセンテージが、本当に、真剣にこれを実行し始めたとしても、それは巨大な影響力をもつだろう。あの 7 千人の普通の人々がなし得たことを考えてみるべきである。